

1. アサリ冬季減耗対策試験（被覆網試験）内容および経過報告

1) 目的

三番瀬海域で問題となっているアサリ冬季減耗対策として、漁業者が実践可能な方法による被覆網アサリ保護管理技術を確立する。

2) 内容（全体計画：平成22～24年度及び平成23年度計画）

H22：被覆網設置方法の検討（付着防止剤の効果、設置方法を実施）

H23：被覆網設置適地の検討， H24：被覆網による保護実証試験

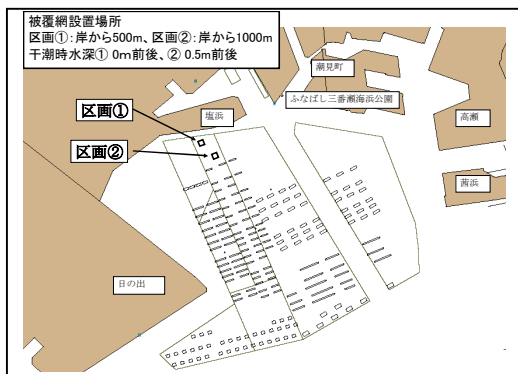


図1 被覆網区画設置場所

※干潮時水深：区画①：0m、区画②：0.5m前後

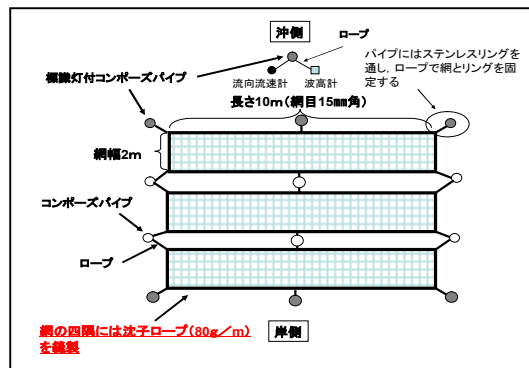


図2 被覆網区画上面図

●被覆網区画設置、放流アサリ追跡調査、流速計・波高計設置

11月10日：三番瀬漁場から採取したアサリを被覆網区画に放流し，被覆網を設置。

11月25日：流速計と波高計を設置し，放流アサリの追跡調査（枠取り調査）を開始。

12月以降：1か月に1回の間隔で機器メンテナンス及び放流アサリ追跡調査を実施。

3) 経過（1月23日現在のアサリ残留率）

- ・区画①（岸側）：放流後の生息密度から算出した残留率（殻長15mm以上）は35%である。
- ・区画②（沖側）：放流後の生息密度から算出した残留率（殻長15mm以上）は83%である。
- ・測定機器のデータは解析中である。

2. ハマグリ資源培養（H23年3,4月放流：南行徳2t，行徳3t，船橋1t, 大きさ20mm前後）

- ・南行徳（推定放流密度95個/m<sup>2</sup>）：6, 8, 10, 12月の生息密度は35, 19, 15, 4個/m<sup>2</sup>。
- ・行徳（150個/m<sup>2</sup>）：6, 8, 10, 12月の生息密度は40, 126, 95, 25個/m<sup>2</sup>。
- ・船橋（13個/m<sup>2</sup>）：6, 8, 10, 12月の生息密度は29, 4, 5, 2個/m<sup>2</sup>。
- ・12月時点の大きさは40mm前後である。
- ・減少要因については時化による散逸が考えられる。

3. ホンビノスガイ資源の有効活用の推進

- ・平成23年の漁獲量は711トンで増加傾向。
- ・平成23年のホンビノスガイ資源は10月に稚貝が見られたため資源が増加（図3）。大きさの主体は殻長11-16mm程度である。

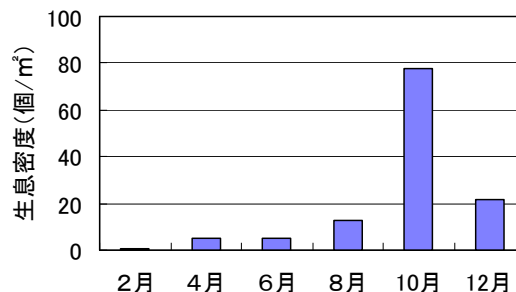


図3 平成23年のホンビノスガイ資源推移

#### 4. 貝類資源調査・肥満度調査結果（平成23年12月現在）

- ・アサリ分布密度は、52個/m<sup>2</sup>（全点平均）であり、前回調査時（10月）の約6%、昨年同時期（46個/m<sup>2</sup>）と同程度です（図4）。
- ・分布の多い場所は、行徳漁場と船橋漁場境の沖漁場及び市川航路の岸側周辺であり、大きさの主体は殻長11~16mmの稚貝です。
- ・平成23年12月のアサリ肥満度は、平年より高く推移しています（図5）。
- ・ホンビノスガイおよびバカガイにおける12月の分布密度は、ホンビノスガイが22個/m<sup>2</sup>、バカガイが11個/m<sup>2</sup>（いずれも全点平均）です。大きさの主体はホンビノスガイ・バカガイともに殻長11~16mmの稚貝です。

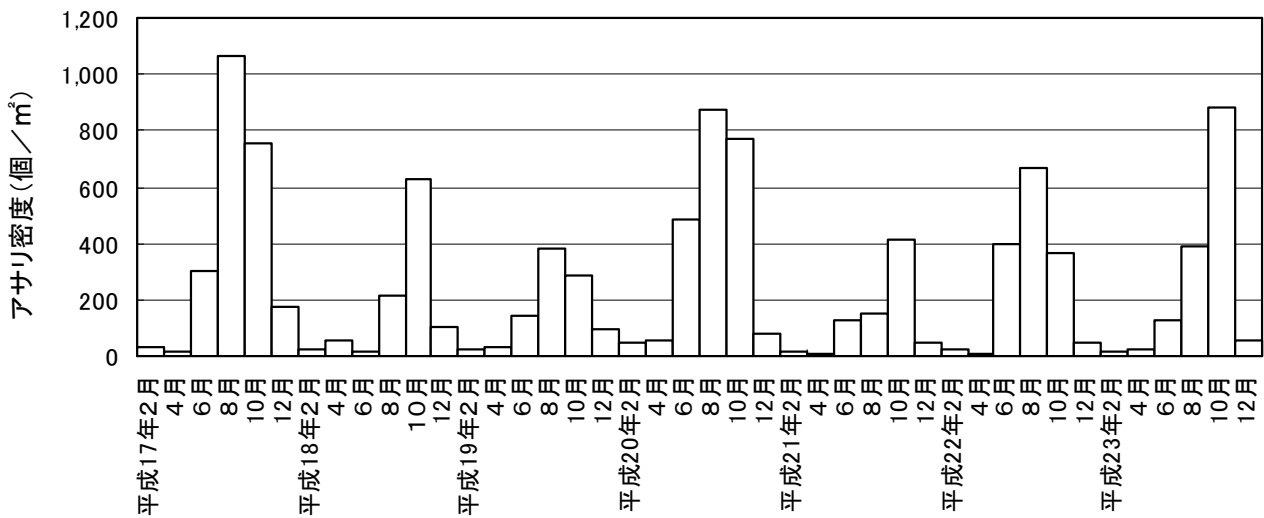


図4 アサリ分布密度の推移

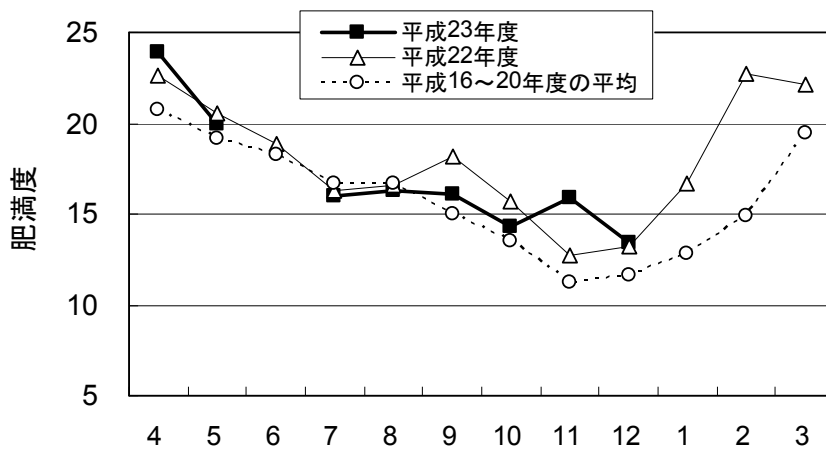


図5 アサリ肥満度の変化